図画工作・美術　実践事例２

表したいものへの思いをもち，自分らしい表現で伝えようとする子ども

－　中学２年「壁面アート・ダンボールの可能性を見つけよう」の実践から　－

１　題材のねらい

グループや学級全体での話し合いによって，お互いにかかわり合い，高め合いながら作品制作を行ったり，鑑賞したりすることができる。

２　授業の構想

(1) 子どものとらえについて

次の文章は，生徒が右下の作品について行った作品分析を振り返って書いたものである。

> 最初はどうやってできているか不思議だったけど，グループの人と分析することで，テーマやつくりを理解することができました。（生徒Ａ）
>
> 構成が綿密で，工夫の跡が見えました。また，メッセージ性もちゃんとあって，四角形からこんなことができるんだと思い，びっくりでした。でも自分はどんな風につくればいいか悩みました。（生徒Ｂ）
>
> まさに四角形から生まれる不思議な世界でした。参考作品はとばしたり展開したり，いろいろな方法で切り取ったパーツを使っていてすごいなと思いました。自分もアイデアスケッチで切りたい形をたくさん描いてみたいです。（生徒Ｃ）

このように，これからどんな作品を制作していくのかを実際に観て，触ってそして友だちと意見を交わしながら分析することによって，教師側から一方的に説明されたものを制作していくよりも思考力や判断力が高まり，より作品に対して入り込んでいけると考える。

本題材を制作する上でのルールはシンプルであるが，作品自体は非常に複雑で綿密なものに見える。生徒Ａは話し合いによって本題材のテーマやルールなどをしっかり理解できた。一方，生徒Ｂはきちんと分析し，内容を理解しているが，発想力や構想力の面で不安を感じている。さらに生徒Ｃは興味・関心をもち，意欲的な様子がうかがえる。ここではグループでかかわり合うことによって作品制作のルールを理解したり，次へのステップとして授業を展開したりすることができると考えられる。

参考作品

生徒たちは美術の授業に対して意欲的に参加し，集中して作品制作に取り組む生徒が多い。また，導入時の話し合いや制作，完成作品の鑑賞など，グループ学習を多く取り入れることにより，お互いに高め合いながらよりよい作品を表現したり，追求したりすることができると考えている。そこで本題材の作品制作を通して，制作する楽しさや喜びを抱かせ，完成した作品のよさやおもしろさ，素晴らしさなどを感じさせるとともに，学級全体での話し合いや個人の気付きなどを通して，自分らしい造形表現を追求していけるように授業を構想していきたいと考えている。

(2) 本題材の内容と図画工作・美術科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力は，創造的な活動を通して創意工夫と試行錯誤を繰り返す一連の過程の中で育成されると考えている。本題材では，デザインの学習を通して新たな素材に出会ったり制作方法や新しく扱う道具の扱い方などを習得したりしながら，それぞれポイントとなるところでグループや学級全体での話し合いを取り入れ，かかわり合いながら，お互いに高め合って作品制作を行ったり，鑑賞したりすることをねらいとしている。

本題材では半立体作品を取り扱い，ダンボールを用いて壁面装飾（レリーフ）を制作する。制作の中では，手で触ったり，表面を剥がしたり，丸めたり，重ねたりできる様々な要素を取り入れ，小学校でも慣れ親しんできているダンボールを素材として作品を作ることで，興味をもって学習できるように工夫するなど，様々な要素を含めた学習を展開していく。その中で，グループでかかわり合いながらダンボールの素材について，さまざまな表現や表情を見付ける場面では，思考力や判断力をいかしながら素材やつくりなどから感じ取り，観て，触って，加工して見付けた表現を今後の作品制作に活用することができると考えている。また，グループでの話し合いや学級全体での鑑賞の場面がいくつかあるが，工夫したところや作品のよさなどを直感的に感じたり，お互いに話し合ったりする中で，思考力や判断力が育成され，教科の特性として最も強く主張される表現力にもつながっていくものと考える。具体的には，形や画面構成，表現方法などを言葉で仲間に伝えることができたり，仲間の表現からよさや素晴らしさを文章で伝えることができたりすることを目指している。さらに，表したいイメージを基に，形や画面構成，表現方法などの性質やそれがもたらす効果について考え，構成や配色による創意工夫・試行錯誤を繰り返す中で判断する。そして自分の思いを表現として仲間に伝える取組を通し，思考力・判断力・表現力を育成できるのではないかと考える。

(3) 思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

思考力・判断力・表現力の育成に向けて，中等部では課題解決の過程の中で評価・改善の場を設定し，振り返りの活動を通じて自分がどのような工夫をし，そこに何を反映させたかを言語化させていく。言語化することで自分の考えなどを確認し，整理することで意図が明確になっていくと考える。また，教師側からお互いの作品や取組に対して評価し合ったりアドバイスを交換し合ったりするかかわり合いの場を意図的に設ける。生徒たちが評価し合う中で，その言葉を掘り下げていくことで，より具体的に相手に伝えることができたり，自分の思いを上手く言葉で表現できたりすることにより，生徒たちは思いを巡らし，判断し，そして表現が高まっていくものと考えている。具体的に，かかわり合いの活動の中で思考力・判断力・表現力を育成するために次のような取組を行う。そしてワークシートや発言等から評価した上でより高め合い，作品制作や言語活動へとつなげていくものとする。

① グループや学級全体での素材の追求

配布されたダンボールや片面ダンボールを加工し，どんな表現や表情が作品に生かせるかを考え，グループでボードにそれぞれ加工したダンボールを貼り付けながら意見を出し合い，まとめる。ダンボールの素材について，さまざまな表現や表情を見付け，グループでまとめた意見を学級全体で発表し合い，表現の多様性を見出し，お互いに共有し合う。様々な意見の中から共通の意見や重要な意見などを判断しながらまとめることで，課題解決に向けての学びを共有させたいと考えた。

② モデルのアイデアスケッチについて学級全体での話し合い

アイデアスケッチの途中の段階で，モデルのアイデアスケッチについて学級全体での話し合いの場を設け，そのよさや改善点などを発表し合い，よりよい表現方法へつなげていけるように促す。これは学級全体で思考力や判断力を高めるため，教師側から意図的に設ける話し合い活動である。この活動を通して，追体験としてさらにアイデアを発展させたり，自分に返ってきたりするようになり，集団思考や個人思考が高まることに期待している。そして，学び合いをいかして，新たな発想や多様な表現を生み出すことができると考える。

③ グループや学級全体での鑑賞会

完成作品の鑑賞では，これまでの活動を振り返り，どのようなことを考え，判断し，表現したかを伝え合うために，グループでの鑑賞を行う。（学級全体での鑑賞は時間の都合により行わず，授業外のところで学年全員でつくり上げた壁面アートを自由に鑑賞する）まず，グループ全員の作品について制作者がプレゼンテーションを行い，その作品に対して肯定的なコメントを書き，交換する。自分がその作品から感じたことや考えたこと，友だちの表現から読み解き判断したこと（学ぶべきよい点や改善すべき点），それをどのような記述で伝えればよいかについて考えさせて取り組ませる。一連のかかわり合いの活動を通して，思考力・判断力・表現力を育成していきたい。

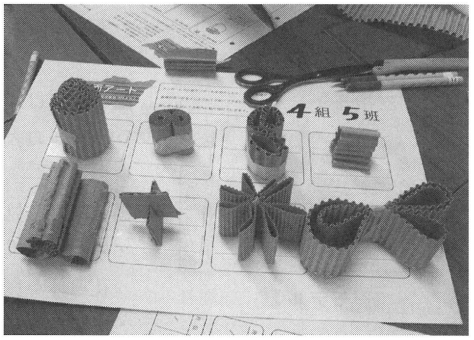
3 展開計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は，学び合い）
1	ダンボールの素材について，さまざまな表現や表情を見付けよう。	1	・ダンボールの素材を生かした「壁面アート」についての説明を聞く。 ・配布されたダンボールや片面ダンボールを加工し，どんな表現や表情が作品に生かせるか考える。 ◇グループでボードに加工したダンボールを貼り付けながら意見を出し合い，まとめる。 ◇ダンボールの素材について，さまざまな表現や表情を見付け，グループでまとめた意見を学級全体で発表し合い，表現の多様性を見出す。
2	壁面アートのデザインをアイデアスケッチしよう。①	2	・壁面アートのテーマを決め，制作するデザインをアイデアスケッチする。
	モデルのアイデアスケッチについてみんなで話し合おう。	3	◇モデルのアイデアスケッチについて学級全体で話し合い，発想や構想につなげ，ダンボールの素材のもつ魅力や表現，表情などを意識して，アイデアスケッチにつなげていく。
	壁面アートのデザインをアイデアスケッチしよう。②	3	・学級全体での話し合いをもとに，改善したり付け加えたりしながらアイデアスケッチを発展させる。
3	ダンボールを使って壁面アートを制作しよう。	4 5 6	・アイデアスケッチをもとに，道具を使用しながらダンボールを加工する。 ・加工したパーツに木工用ボンドを塗布し，箱の底面に接着させるように詰めていく。 ・ダンボールの素材のもつ魅力を生かし，表現や表情を工夫しながら作品制作を行う。
4	友だちの作品を鑑賞しよう。	7	◇完成作品について工夫した点や苦労した点などをグループの友だちにプレゼンテーションする。 ・お互いの作品に対する感想などをメッセージとして贈り合う。
授業外			・学年全員でつくり上げた壁面アートを自由に鑑賞する。

4　授業の実際

(1) ダンボールの素材について，さまざまな表現や表情を見付ける（第１次）

グループで試行錯誤しながら加工している様子



さまざまな表現や表情を見付けてボードに貼り付けたもの

まず「壁面アート」についてダンボール素材を生かして作品制作を行うことを伝え，提示した箱の中に素材を詰め込んで壁面装飾（レリーフ）作品を制作することを理解させ，表したいことを明確にする。さらには学年全員の作品を一つの額に納め，校内に展示する計画であることも伝え，興味・関心をもたせようと考えた。そこで，箱の中に詰めていくダンボールをどのように加工すればデザイン的なよさが表れるのかを考えさせるため，グループごとにさまざまな厚さのダンボールや片面ダンボールを配布し，それぞれで道具を使用しながらダンボールの断面の構造がそのまま模様になることや，デザインとしての美しさを引き出す重ね方・集め方などを探らせたいと考えた。その際，グループ内で相談したり，ヒントを与え合ったりするといったかかわり合いの姿が見られた。この時，ダンボールを切断し，中芯が見えるように立てたり，それらを重ねたり，表（裏）のボール紙を部分的に剥がし，中芯をわずかに見せたり，片面ダンボールをぐるぐると丸めたり，それを中心から指で押し込んで反対側を突起させたりと，さまざまな表現や表情が見付けることができた。さらにそれをグループで話し合ったり，加工したそれぞれのダンボールを１枚のボードに貼り付け，まとめたりした。その後に学級全体の場で発表し，さまざまな表現や表情を共有し合うかかわり合いの場を設定した。グループによっては他のグループと同じような加工もあったが，中にはさらなる表現や表情を発見することもできた。以下のアンケート結果からも分かるように，「グループでダンボールを加工しながら素材のもつ表現や表情を見付ける作業は，自分の作品をつくる上で参考になった」という質問に対して，９割以上の生徒が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており，このかかわり合いによってダンボールの魅力やよさに気付いたり，参考作品の提示，あるいは個人思考と集団思考をつなぐ教師側の「掘り下げる」または「提案する」といったはたらきかけなどから新たな発見へとつながり，作品制作にいかすことができたりと，思考力・判断力・表現力を高めることにもつながったと言える。

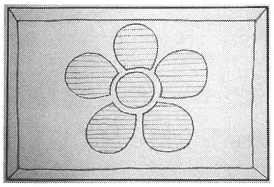
Ｑグループでダンボールを加工しながら素材のもつ表現や表情を見付ける作業は，自分の作品をつくる上で参考になった

- そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・58.1%
- どちらかといえばそう思う・・・・・・36.0%
- どちらかといえばそう思わない・・・・ 2.9%
- そう思わない・・・・・・・・・・・・・ 0.7%
- その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 2.2%

(2) モデルのアイデアスケッチについて学級全体で話し合う（第２次）

アイデアスケッチの途中の段階で，モデルのアイデアスケッチについて学級全体での話し合

いの場を設け，そのよさや改善点などを発表し合い，よりよい表現方法へつなげていけるように促したいと考えた。これは，第２次１時が終了した時点で生徒のアイデアスケッチを集約し，第１次で行った素材のもつ魅力について，共有し合った表現や表情が生かしきれていないものや，さらに工夫の余地があるものを教師側で把握し，モデルを提示する必要があると考えたからである。実際には以下の３種類のアイデアスケッチを提示し，話し合い活動を行った。



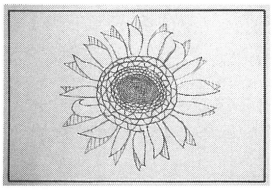
モデル①

■箱の底面に同じサイズのダンボールを沈め，表面のボール紙を花の形に剥がしたもの。中芯が花の模様に見える。

■生徒の意見

・シンプルなところがよい。もっと他のダンボールを使ったり，周りにもつくったりするとよい。

・ダンボールの中芯が横方向に見えるように使っている。見栄えや迫力がないので，もうひと手間加えて，空きスペースを無くすとよいと思う。



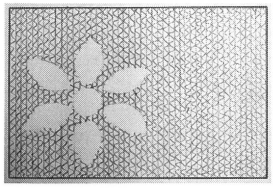
モデル②

■中央には片面ダンボールを数種類使用し，丸めたものを配置。花びらの部分はダンボールの表面にあるボール紙に途中まで切れ込みを入れて剥がし，立体感をつけている。

■生徒の意見

・片面ダンボールを中心から薄い，普通，厚い，の順番に精密に重ね，丸めている。花自体が真ん中に配置されているので，もう少し工夫するとよいと思う。

・円になっているところや花びらが工夫してあってよい。周りにも何かつくるとさらによいと思う。



モデル③

■ダンボールの断面が見えるように，切ったものを重ね，タテに隙間なくはめ込んでいる。一部，花の模様に見えるようにくり抜いている。

■生徒の意見

・くり抜いているところが，新しい考え方だと思う。空いたスペースをもう少し工夫できるとよいと思う。

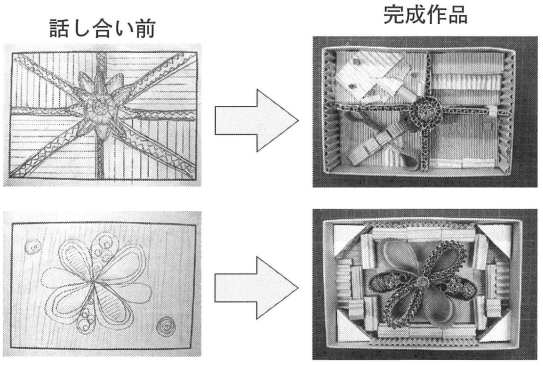
・切り抜く表現は斬新で，着眼点と構図が面白いと思う。ただし，表現が単調になるので縦じまと横じまをつくった方がよいと思う。

この活動を通して，追体験としてさらにアイデアを発展させたり，自分に返ってきたりするようになり，集団思考や個人思考を高めることにつながったと考える。そして，以下のアンケート結果からも分かるように，「モデルのアイデアスケッチについてみんなで話し合った活動は，自分のアイデアスケッチを見直す上で参考になった。」という質問に対して，９割以上の生徒が「そう思う」もしくは「どちらかと言えばそう思う」と回答しており，かかわり合いながら新たな発想や多様な表現を生み出すことにつながったと言える。

Ｑモデルのアイデアスケッチについてみんなで話し合った活動は，自分のアイデアスケッチを見直す上で参考になった。

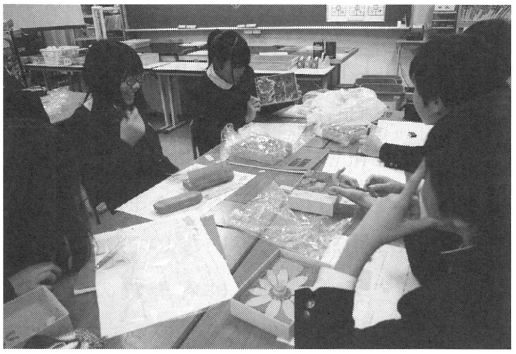
・そう思う・・・・・・・・・・・・・・56.6%
・どちらかといえばそう思う・・・・・37.5%
・どちらかといえばそう思わない・・・ 2.9%
・そう思わない・・・・・・・・・・・ 0.7%
・その他・・・・・・・・・・・・・・ 2.2%

話し合い前　　完成作品



(3) グループで完成作品の鑑賞・メッセージ交換（第４次）

第４次では，作品完成後に鑑賞会を行い，制作した作品について，工夫した点や苦労した点などをグループの友だちにプレゼンテーションし，お互いの作品に対する感想やコメントなどをメッセージとして贈り合った。ここでは友だちの作品のよさや素晴らしさ，工夫してある点などを見付け，肯定的なコメントを伝えるように促したため，お互いに認め合ったり讃え合ったりする有意義な活動となった。



鑑賞会でのプレゼンテーションを行っている様子

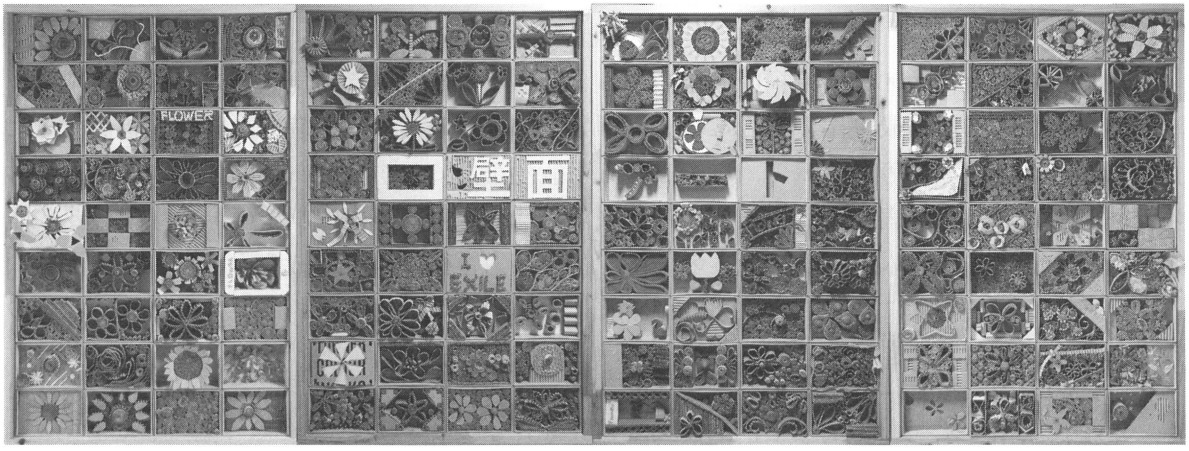
5　成果と課題

課題解決に向けた学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育成するために一連の活動を通して，かかわり合いによる話し合いや鑑賞の機会を設けたことで，表現に対する意欲を高め，学んだことを制作方法にいかしていくことができたのではないかと思う。また，通常の授業形態が４人グループに机を配置していることや，教師側の意図から場面によって６人グループに変則的に変えていくことにより，話し合いや鑑賞等がスムーズに行うことができたことは，これまでの成果と言える。しかし，制作中の私語や指示の通りにくい場面などは，通常教室と同様に机を配置することも考える必要がある。さらには教師側の「掘り下げる」または「提案する」はたらきかけも不十分な点があるため，吟味しながら行う必要もあると感じた。

展示枠の中に完成した作品をはめ込んでいる様子

今回，新たに設けた活動として，生徒のアイデアスケッチではなく，第三者であるモデルのアイデアスケッチを取り上げることで，相手に気を遣ったりすることなく，自分の経験を生かし，素直な意見や提案を学級全体の場で話し合うことができたことは，大変有効であったと言えよう。さらに，思考力・判断力・表現力を高めていくための教材やワークシートなどの開発，工夫も必要であると感じた。

（文責　錦織　秀行）



完成した壁面アート